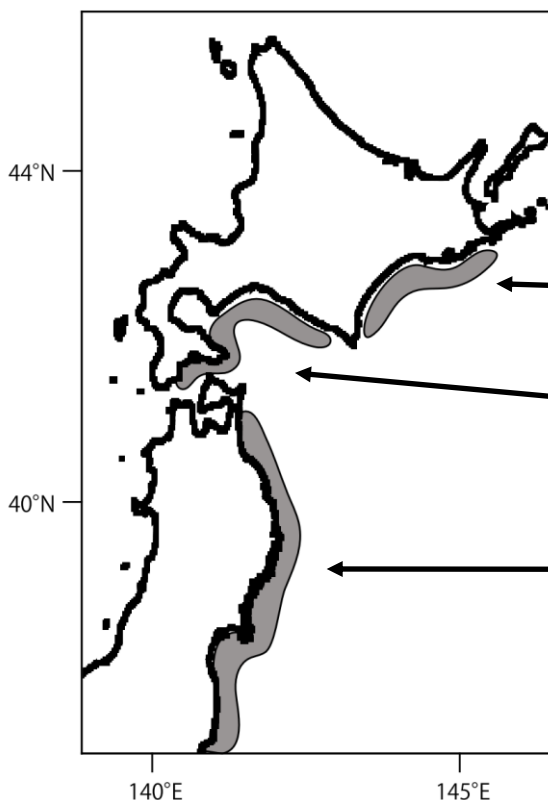


## 2024年度 第1回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2024年9月)のポイント



常磐～三陸海域は前年をやや上回り、  
津軽海峡～道南太平洋海域は前年を下回り、  
道東太平洋は前年並。

道東太平洋海域：  
来遊量は前年並。

津軽海峡～道南太平洋海域：  
来遊量は前年を下回る。

常磐～三陸海域：  
来遊量は前年をやや上回る。

### 問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部  
担当：緑川、酒井、渡邊  
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881  
当資料のホームページ掲載先URL  
<https://www.jafic.or.jp/information/category/news/>

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
<http://abchan.fra.go.jp/>

# 2024年度第1回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

## 今後の見通し（2024年9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2024年級群）

### 1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

(1) 来遊量：前年をやや上回る。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

### 2. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

### 3. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：漁場形成は散発的で、明瞭な主漁期はない。

## I 予報の説明

第 1 回太平洋スルメイカ長期漁況予報公表後の漁況の経過等を主要な情報として、9 月におけるスルメイカの来遊量を予測すると、常磐～三陸海域では前年をやや上回る、津軽海峡～道南太平洋海域では前年を下回る、道東太平洋海域では前年並と予測される。各海域における見通しは以下の通りである。

### 1. 常磐～三陸海域

漁獲対象資源は、太平洋沿岸域を北上する群を主体に、津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。三陸周辺海域（41° N 以南、143° E 以西）におけるいか釣り調査は前年同様に漁獲がなかった（図 1）。

6～7 月の青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船の漁況について、6～7 月の漁獲量及び CPUE（1 日 1 隻当たり水揚量）は前年並であった。

8 月上～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。青森県の白糠港、泊港、三沢港、八戸港における合計漁獲量は前年を下回り（前年 111.7 トン、本年 81.4 トン）、CPUE も前年並みであった（前年 0.12 トン/隻/日、本年 0.11 トン/隻/日）。岩手県主要 7 港における合計漁獲量は前年を上回り（前年 6.7 トン、本年 30.3 トン）、CPUE も前年を上回った（前年 0.04 トン/隻/日、本年 0.06 トン/隻/日）。宮城県主要 9 港における合計漁獲量は前年を上回り（前年 0.04 トン、本年 1.4 トン）、CPUE は前年を上回った（前年 0.01 トン/隻/日、本年 0.10 トン/隻/日）。青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による漁獲量は前年並み（前年 118.4 トン、本年 113.1 トン）、CPUE は前年を下回った（前年 0.11 トン/隻/日、本年 0.09 トン/隻/日）。

三陸周辺海域における 5 月下旬～6 月下旬のいか釣り調査では、ほとんど漁獲がなかったが、漁法別水揚量では底びき網を主体に三陸南部で前年を上回った。太平洋沿岸域を北上した群れの来遊量は前年を上回ると判断され、三陸北部では小型いか釣りによる漁獲量は増加する。また、三陸の沖合底びき網が 9 月から始まることから、漁獲量の増加が見込まれる。以上の調査結果およびこれまでの漁況経過等により、9 月における常磐～三陸海域への来遊量は前年をやや上回ると予測される。

### 2. 津軽海峡～道南太平洋海域

漁獲対象資源は、太平洋沿岸を北上する群と津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。津軽海峡東口周辺海域（41° N 以北、143° E 以西）におけるいか釣り調査 CPUE は漁獲がなかったため前年を下回った。

6～7 月における小型いか釣り漁船の漁況は、大畑港、函館港の全体で見ると、6～7 月の漁獲量は前年を上回ったが、CPUE は前年を下回った。

8 月上～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。大畑港における漁獲量は、前年を上回り（前年 1.0 トン、本年 3.2 トン）、CPUE は前年を上回った（前年 0.02 トン/隻/日、本年 0.04 トン/隻/日）。函館港における漁獲量は前年を上回り（前年 3.0 トン、本年 7.8 トン）、CPUE は前年を上回った（前年 0.02 トン/隻/日、本年 0.05 トン/隻/日）。

津軽海峡～道南太平洋海域におけるいか釣り調査では前年同様に漁獲がなかった。また、5 月上旬～6 月上旬に常磐～三陸沖で実施した表層トロールネットによる移行域幼稚魚調査の結果では、外套背長 10cm 未満のスルメイカの平均 CPUE は 0.4 尾で、前年（1.1 尾）を下回った。全調査点のうち有漁点の割合は 15%であり、前年

(29%)を下回った。8月上～中旬における漁況は前年を上回ったものの、6～7月における漁況及び調査船調査結果から判断すると、9月における津軽海峡～道南太平洋への来遊量は前年を下回ると予測される。

### 3. 道東太平洋海域

漁獲対象資源は、沖合域を北上する群と考えられる。太平洋第1次スルメイカ漁場一斉調査では、津軽海峡～道南太平洋(図1(B))0箇所、沖合域(図1(C))の6箇所中僅か2箇所のみ漁獲があった。CPUEは0.002尾で前年の0.001尾を上回ったものの、前年に引き続き低い水準であった(図1)。

6～7月において道東海域では小型いか釣り漁船による水揚げはなかった。8月上～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、釧路港、厚岸港、花咲港で水揚げが前年同様に0トンであった。

なお、5月上旬～6月上旬に常磐～三陸沖で実施した移行域幼稚魚の表層トロール調査では、東経147°以西の沿岸域ではほとんど漁獲されず、東経148°付近及び東経153°～155°の沖合域で若干の漁獲があったが漁場への来遊の寄与は大きくないとみられる(図2)。

FRA-ROMS II\*による9月上旬、下旬の道東沖の50m深予測水温は、黒潮続流域の北上暖水の勢力が引き続き強い。道東沖には暖水塊が停滞するが、9月下旬は根室から襟裳岬の沿岸まで親潮第一分枝からの冷水が波及すると予測される(図3)。5月上旬～6月上旬の太平洋における表層トロールネット移行域幼稚魚調査でも、東経147°以西にまとまった群がないことから、9月における魚群の来遊は前年並の低い水準と予測される。

\*国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した海況予測システム。本予報には、2024年8月29日にホームページに記載されていた予測情報を使用した。

## II 各海域の漁況経過(6～8月中旬)

2024年6～8月中旬の宮城県以北の太平洋沿岸主要港での小型いか釣りによる漁獲量(生鮮:速報値、一部未集計)は315.3トンで、前年(414.3トン)を下回る一方、全漁法による合計漁獲量は1,154.2トンで前年(849.1トン)を上回った。

### 1. 常磐～三陸海域

青森県(白糠港、泊港、三沢港、八戸港)、岩手県(主要7港)、宮城県(主要9港)における2024年6～8月中旬の合計漁獲量は197.4トンで、前年(414.3トン)を下回った。なお、八戸沖のまき網による2024年6～8月の漁獲量は33トンで、前年(6トン)を上回った。八戸の底びき網による2024年6～8月の漁獲量(八戸市水揚げ概況による)は52.1トンで、前年(103.3トン)を下回った。一方、石巻の底びき網による2024年6～8月の漁獲量は413.6トンで、前年(193.5トン)を上回った。

旬別の漁況の経過を図4-1に示す。

### 2. 津軽海峡～道南太平洋海域

大畑港、函館港における2024年6～8月中旬の合計漁獲量は48.2トンで、前年(49.3トン)並に低調であった。旬別の漁況の経過を図4-2に示す。

### 3. 道東太平洋海域

道東4港（十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港）における2024年6～8月中旬の合計漁獲量は0トンで、前年（0トン）同様に0トンであった。旬別の漁況の経過を図4-3に示す。

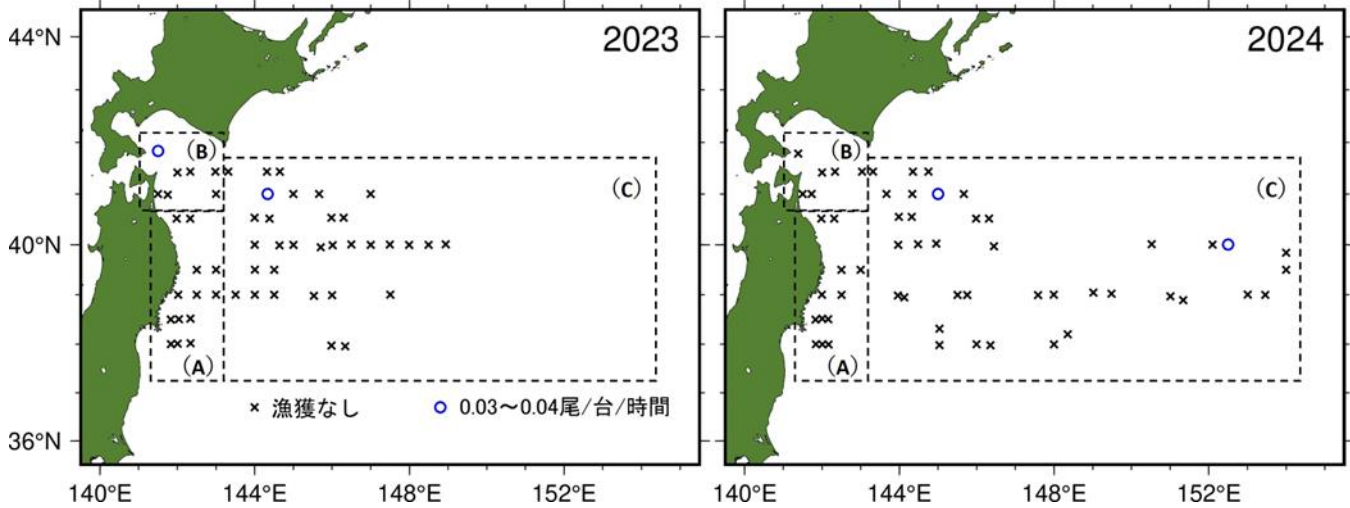


図1. 2023年、2024年5月下旬～6月下旬の太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布

○は0.03～0.04尾/台/時間の有漁点、×は漁獲なしを表す。破線で囲まれた海域は（A）三陸周辺海域、（B）津軽海峡～道南太平洋海域、（C）沖合域を示す

（2024年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報図1より抜粋）

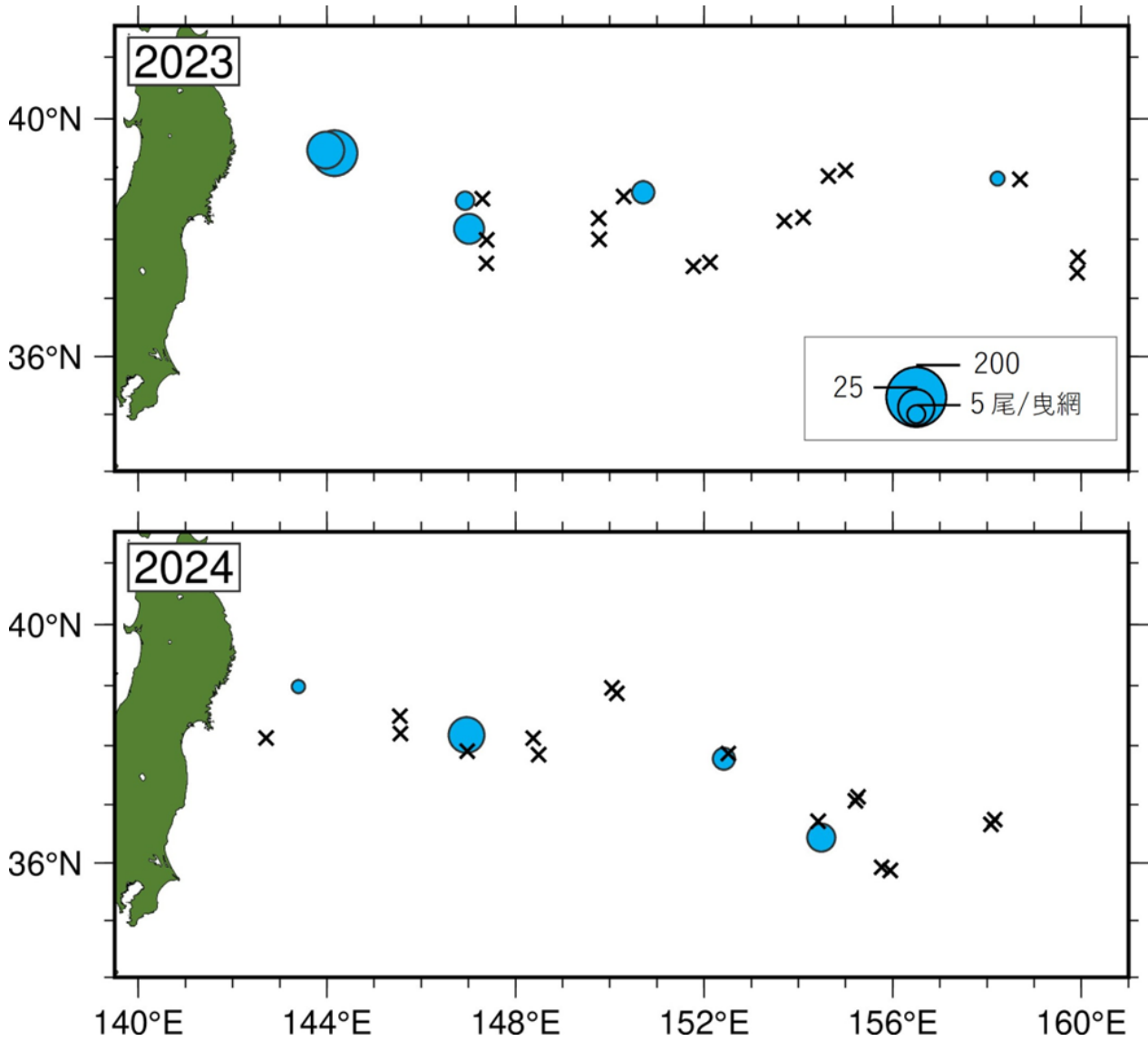


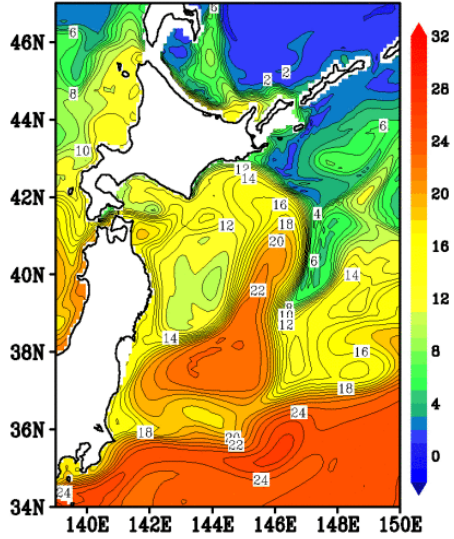
図2. 2023年、2024年5月上旬～6月上旬の太平洋における表層トロールネット移行域幼稚魚調査によるスルメイカのCPUE（30分曳網当たり漁獲尾数）の分布

丸の大きさはCPUE、×は漁獲なしを表す。

(2024年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報 図5より抜粋)

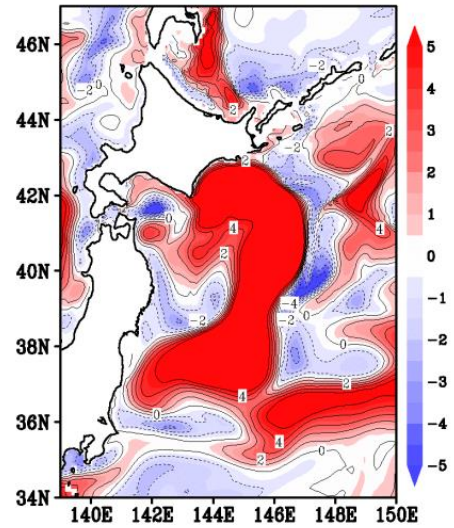
FRA-ROMS II

2024/09-early Temperature[°C] (50m)



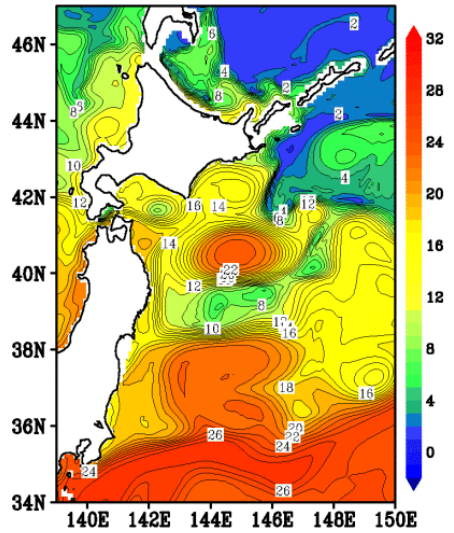
FRA-ROMS II

2024/09-early Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)



FRA-ROMS II

2024/09-late Temperature[°C] (50m)



FRA-ROMS II

2024/09-late Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)

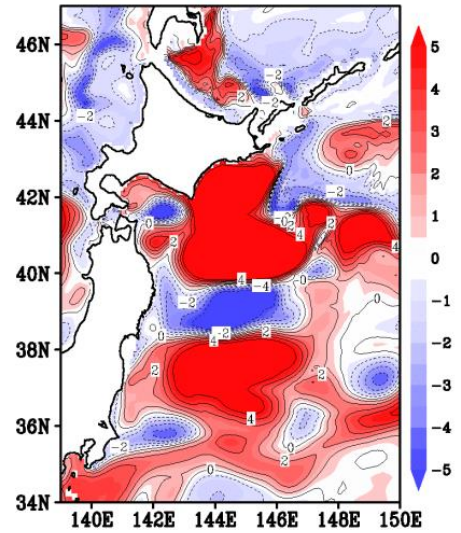
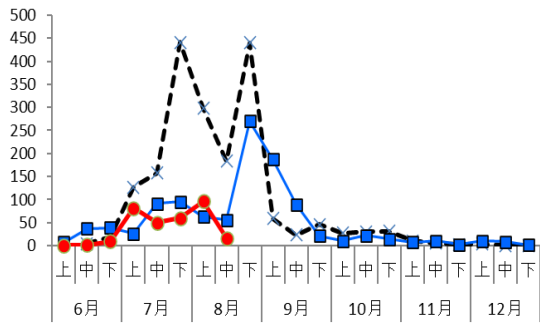


図3. 海況予測システムFRA-ROMS IIによる2024年9月上旬と下旬の50m深予測水温(左図)および平年差(右図)

2024年8月29日にHPより取得した

注：50m深はスルメイカの代表的な分布深度

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

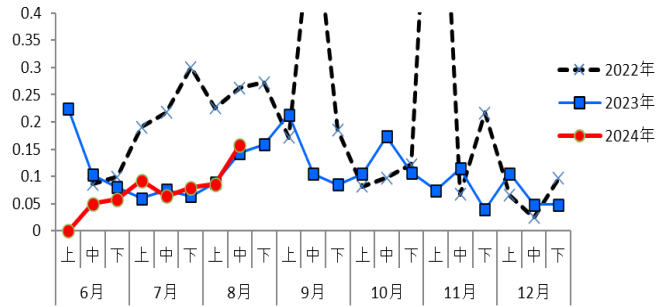
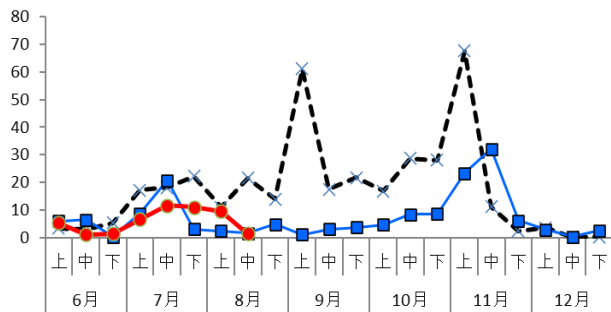


図4-1. 常磐～三陸海域の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量（トン/隻/日）

（CPUEの計算は、白糠港～大船渡港のデータを使用）

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

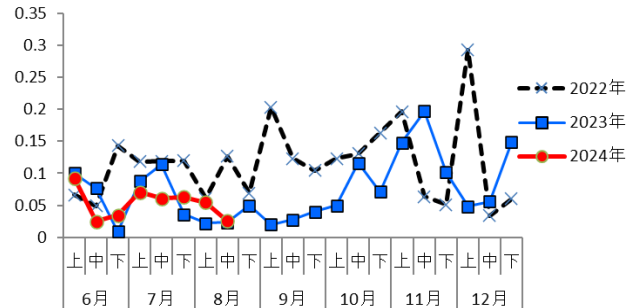
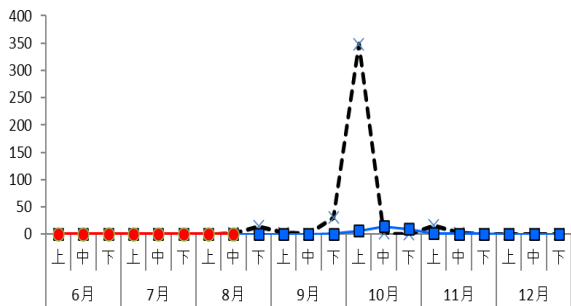


図4-2. 津軽海峡～道南太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

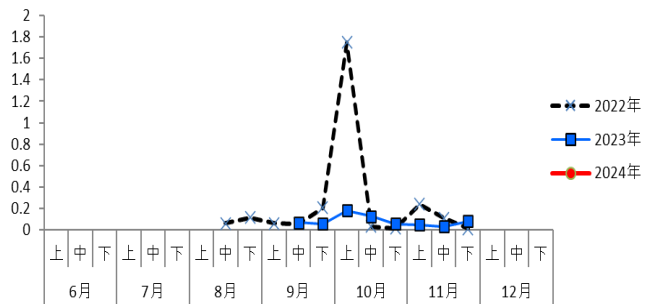


図4-3. 道東太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
福島県水産海洋研究センター	(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター
茨城県水産試験場	
千葉県水産総合研究センター	
神奈川県水産技術センター	
静岡県水産・海洋技術研究所	